

〈研究ノート〉

## 日本語版ECTBを用いた成人看護学実習の実習指導評価 －看護学生と実習指導者、実習指導者の役割による比較から－

Evaluation of Clinical Practice of adult nursing which used  
Japanese Effective Clinical Teaching Behaviors;  
from a comparison between Clinical nursing practice leaders and Nursing students, the role of leaders

山本 純子<sup>1</sup>, 伊藤 朗子<sup>2</sup>, 中本 明世<sup>3</sup>, 松田 藤子<sup>4</sup>, 門 千歳<sup>5</sup>, 横溝 志乃<sup>6</sup>

### 要 旨

看護学生と実習指導者、実習指導者の役割による比較から、成人看護学実習の実習指導評価を行うとともに、日々の指導者の実習指導における思いについて明らかにし、学生にとって効果的な実習指導への示唆を得ることを目的とする。成人看護学実習を履修した学生95名とその実習指導を担当した実習指導者80名を対象に、学生へは日本語版ECTBを用いた自記式質問紙調査を、実習指導者には日本語版ECTBと日ごろの実習指導への思いについて質問紙調査を実施した。分析は、記述統計を行い、看護学生と実習指導者の比較および実習指導者の役割による比較においてt検定を行った。実習指導者の実習への思いについては、質的帰納的に分析を行った。看護学生と実習指導者の比較では、『学生への理解』で実習指導者よりも看護学生のほうが有意に低かった。臨地実習指導者および実習指導者と日々の指導者の2群の比較では、『学習意欲への刺激』、『理論的な指導』、『学生への理解』で日々の指導者の方が有意に低かったが、『実践的な指導』では有意な差は認められなかった。日々の指導者の実習指導における思いからは、【学生間の差】、【学生の実習態度】、【学生の看護実践】、【実習指導のしづらさ】、【大学への要望】が抽出された。効果的な実習指導のために、看護学生の気持ちに寄り添うこと、学生の指導内容の理解度を確保すること、記録物を介した指導を活用すること、日々の指導者と教員は連携を積極的に図るとともに、態度面への継続した指導を行うことの必要性の示唆を得た。

キーワード：日本語版ECTB, 成人看護学実習, 看護学生, 実習指導者

Japanese Effective Clinical Teaching Behaviors, Clinical Practice of Adult Nursing,  
Nursing students, Clinical nursing practice leaders

### I. 諸言

看護基礎教育における授業には、講義・演習・実習の形態がある。なかでも臨地実習は、学内で学んだ知識・技術・態度の統合を図りつつ看護実践能力を高め、看護実践に不可欠な援助的人間関係能力、看護職者としての役割や責務を果たす能力の育成を図る重要な学習機会である<sup>1)</sup>。しかし、これらの能力は、ただ経験の積み重ねで得られるものでは

ない。複雑で多様な要件を含んでいる実習環境の中で学習を効果的にするためには、教員や指導者がその状況を総合的にとらえ、どのような学習が可能かを判断しながら、意図的に関わる必要がある<sup>2)</sup>、実習病院と教育機関がともに学生の効果的な学習支援について検討し、取り組むことが求められる。

本学では、提携病院である実習施設との間で、実習指導体制の充実に向けた協同活動を行っている。

- 1 Junko YAMAMOTO 千里金蘭大学 看護学部  
2 Akiko ITOH 千里金蘭大学 看護学部  
3 Akiyo NAKAMOTO 千里金蘭大学 看護学部  
4 Fujiko MATSUDA 一般財団法人住友病院 看護部  
5 Chitose KADO 一般財団法人住友病院 看護部  
6 Shino YOKOMIZO 一般財団法人住友病院 看護部

受理日：2014年10月15日

そのひとつとして、実習指導評価に関する活動があり、昨年度は、実習指導者と看護学教員の自己評価を基に、役割の違いによる効果的な臨地実習指導について検討を行った<sup>3)</sup>。しかし、指導者側の自己評価と学生側の他者評価を比較できていないことから、学生を中心とした指導の在り方への検討について課題が残された。また、昨年度の実習指導者の対象は、実習病棟において学生指導の中心的な役割をもつ看護師（臨地実習指導者と実習指導係）に限定したが、実際の指導場面においては、これらの役割をもつ看護師の他にも日々の学生指導を担うスタッフも関わっている。そのため、日々の学生指導に関わるスタッフの評価も実習指導評価の検討においては重要になると考えた。

そこで、本研究では、看護学生と実習指導者の評価の比較、実習指導者の役割別の自己評価の比較から成人看護学実習の実習指導評価を行うとともに、日々の指導者の実習指導における思いについて明らかにし、学生にとって効果的な実習指導への示唆を得ることを目的とする。

## II. 研究目的

本研究の目的は、以下の内容を明らかにすることで、学生にとって効果的な実習指導への示唆を得ることを目的とした。

- 1) 成人看護学実習を履修した看護学生と成人看護学実習指導に係わった実習指導者の実習指導評価を比較する
- 2) 実習指導者（臨地実習指導者、実習指導係、日々の指導者）の役割別の実習指導評価を比較する
- 3) 日々の指導者の実習指導における思いを明らかにする

## III. 研究方法

### 1. 用語の操作的定義

臨地実習指導者：看護学教員との窓口担当で病棟における実習調整の役割を担う看護師、病棟主任が配置される

実習指導係：病棟に1～2名配置され、実習期間の学生指導の中心的役割を担う看護師

日々の指導者：その日の看護ケアを中心に学生指導を行う看護師

### 2. 調査対象

本研究では、平成25年度にA看護系大学で3年生後期に成人看護学実習を履修したのべ95名、その実習指導を担当した実習指導者80名を対象とした。

### 3. 調査時期

平成25年10月～平成26年1月

### 4. 調査方法

無記名自記式質問紙を用いて実施した。実習指導者へは病棟師長を通して配付し、郵送にて回収した。看護学生へは、各実習の最終日に配付し、回収箱にて回収した。

### 5. 調査項目

実習指導内容の評価指標には、実習指導へ高い評価を得ている指導者の行動と学生が指導者に望む行動から、効果的な実習指導行動を評価するZimmerman&Westfall<sup>4)</sup>の評価指標を参考に石川ら<sup>5)</sup>が日本語版を作成、さらに中西ら<sup>6)</sup>が修正した日本語版Effective Clinical Teaching Behaviors (以下、ECTB)を用いた。学生には、中西ら<sup>6)</sup>の内容の意図が伝わるように影本<sup>7)</sup>が改変した評価表を用いた。1～5の5段階評価で、点数が高いほど指導者は効果的な指導を行ったと自己評価し、学生は効果的な指導を受けたと感じていることを意味している。この指標は、実習指導要素の諸側面を参考に、4つの指導要素「実践的な指導」「理論的な指導」「学習意欲への刺激」「学生への理解」に分類し評価している。

また実習指導者へは、属性として役職、看護師経験年数、臨地実習指導経験年数、また日ごろの実習指導において感じていることについて自由記述を求めた。

### 6. 分析方法

まず、看護学生と実習指導者の評価の比較のため、質問項目および4つの構成要素について記述統計およびt検定を行った。

また、実習指導者の役割別の比較のため、構成要素の記述統計を行い、その後臨地実習指導者および実習指導係と日々の指導者の比較のため、構成要素と各項目の記述統計およびt検定を行った。統計処理にはSPSSVer.19を使用した。

自由記述については、意味内容の類似性、相違性

によりカテゴリーに分類した。

(範囲9か月-17年)だった。

## 7. 倫理的配慮

対象者には研究の目的や方法、参加は自由意思であり成績や業務評価とは無関係であること、質問紙の回収をもって研究協力の承諾とすること、質問紙は無記名であり、調査結果は統計的に処理されるため個人が特定されないこと、目的以外には使用しないことについて、書面および口頭で説明した。なお本研究は、研究者が所属する大学の研究倫理審査委員会と、成人看護学実習病院の倫理審査委員会の承認を得て行った。

## 8. 実習の概要

成人看護学実習は3～4年生を対象とした実習科目(3単位)で、成人看護学実習Ⅰは急性期の経過をたどる対象者、成人看護学実習Ⅱは長期にわたる療養生活や慢性疾患をもつ対象者を受け持つ。1施設で各3週間行われる。

## IV. 結果

成人看護学実習を履修した学生から79部の回答があり、(回収率83%)、79を分析対象とした(有効回答率100%)。

実習指導者からは57部の回答があった(回収率71%)。副師長からの回答1部は、実習指導上の役割が異なると判断したため除外し、56を分析対象とした(有効回答率98%)。さらに、役割別の比較では、役割についての記載がなかった1部を除き、55を分析対象とした(有効回答率96%)。

看護師の属性は、看護師の平均経験年数8.9年(範囲2年9か月-21年)、平均実習指導経験年数5.3年

## 1. 看護学生と実習指導者の実習指導評価の比較

看護学生と実習指導者の要素別平均値の比較を表1に、項目別の平均値の比較を表2に示す。

看護学生と実習指導者の要素別平均値を比較すると、『学生への理解』で実習指導者よりも看護学生のほうが有意に低かった( $p < 0.05$ )。平均値の順位でも看護学生は『理論的な指導』が高く、『学習意欲への刺激』、『実践的な指導』、『学生への理解』の順だったが、実習指導者では『学生への理解』が高く、次いで『実践的な指導』、『学習意欲への刺激』、『理論的な指導』の順だった。

項目別の比較において、「24.記録物の内容について適切なアドバイスをしてくれていますか?」、「30.実習グループの中で、学生が互いに刺激しあって向上できるように働きかけてくれていますか?」では学生の平均値が有意に高く( $p < 0.01$ )、「2.ケアの実施時には、(学生に)基本的な原則を確認してくれていますか?」、「11.学生が緊張している時には、リラックスさせるようにしてくれていますか?」、「39.指導の方法は統一していますか?」では実習指導者の方が有意に高かった( $p < 0.001$ )。

## 2. 実習指導者の役割別の比較

実習指導者の役割は、臨地実習指導者が6名(11%)、実習指導係が12名(22%)、日々の指導者が37名(67%)だった。実習指導者の役割別の要素別平均値の比較を図1に示す。

実習指導者の役割別の要素別平均値の比較では、全ての要素において臨地実習指導者が高く、日々の指導者が低い傾向を認めた。そこで、日々の指導者とその他の看護師の評価の違いを明らかにするた

表1 看護学生と実習指導者の要素別平均値の比較

	看護学生 n=74		実習指導者 n=56		
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
実践的な指導	3.64	0.71	3.71	0.58	
理論的な指導	3.76	0.67	3.68	0.59	
学習意欲への刺激	3.66	0.69	3.70	0.64	
学生への理解	3.58	0.77	3.88	0.57	*

\*  $p < 0.05$

表2 看護学生と実習指導者の項目別平均値の比較

質問項目	学生 (n=74)		実習指導者 (n=56)		
	平均値	SD	平均値	SD	
<b>実践的な指導</b>					
2 ケアの実施時に、(学生に)基本的な原則を確認してくれていますか？	3.59	0.91	4.16	0.83	***
12 専門的な知識を学生に伝えるようにしてくれていますか？	3.72	1.03	3.95	0.75	
16 学生に対して看護者として良いモデルになっていますか？	3.76	0.95	3.54	0.74	
21 理論的内容や、既習の知識・技術などを実際に臨床の場で適用してみるような働きかけてくれていますか？	3.68	0.98	3.68	0.81	
25 記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行えていますか？	3.36	0.97	2.93	1.09	*
31 必要と考えるときには、看護援助行動のお手本を学生に示してくれていますか？	3.70	1.00	3.98	0.77	
<b>理論的な指導</b>					
5 学生に対し客観的な判断をしてしていますか？	4.01	0.82	4.31	0.57	*
6 看護専門職としての責任を学生が理解するように働きかけてくれていますか？	4.03	0.86	4.04	0.74	
7 学生の不足なところや欠点を、学生が適切に改善できるような働きかけてくれていますか？	4.07	0.83	3.89	0.68	
14 学生が学ぶことの必要性や学習目標を認識できるように支援してくれていますか？	3.80	0.84	3.82	0.86	
19 より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言ってくれていますか？	3.18	1.05	3.14	1.17	
20 学生に事柄を評価しながら考えてみるように言ってくれていますか？	3.60	0.96	3.43	0.95	
24 記録物の内容について適切なアドバイスをしてくれていますか？	3.65	0.90	3.11	1.04	**
<b>学習意欲への刺激</b>					
8 カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導してくれていますか？	3.99	0.80	4.07	0.83	
15 学生が“看護は興味深い”と思えるような姿勢で仕事していますか？	3.62	0.90	3.68	0.72	
18 学生が実施してよい範囲・事柄を、実習の過程に応じて明確に示してくれていますか？	3.41	0.86	3.80	0.82	*
23 学生がより高いレベルに到達できるような対応をしてしていますか？	3.81	0.79	3.60	0.87	
27 学生が新しい体験ができるような機会を作ってくれていますか？	3.76	0.96	3.48	0.87	
30 実習グループの中で、学生が互いに刺激あって向上できるように働きかけてくれていますか？	3.55	0.86	2.95	1.10	**
33 学生が新しい状況や今までと異なった状況に遭遇した時は方向づけをしていますか？	3.65	0.97	3.90	0.77	
35 学生自身が自己評価をできやすくするように働きかけてくれていますか？	3.49	0.98	3.70	0.71	
37 学生が何か選択に迷っている時、選択できるように援助してくれていますか？	3.57	0.99	3.77	0.83	
38 学生に良い刺激となるような話題を投げかけてくれていますか？	3.55	0.94	3.52	0.87	
41 学生がうまくいかなかった時、そのことを学生自身が認めることができるような働きかけてくれていますか？	3.64	1.01	3.73	0.86	
42 学生の受け持ち患者様と、その患者様へのケアに関心を示してくれていますか？	3.81	0.87	4.05	0.84	
43 学生が学習目標を達成するために、適切な経験ができるように援助してくれていますか？	3.80	0.84	3.88	0.85	
<b>学生への理解</b>					
4 学生に対し(裏表なく)率直ですか？	3.96	0.88	4.34	0.64	**
9 学生に対し思いやりのある姿勢でかかわっていますか？	3.76	0.98	4.02	0.80	
10 学生がうまくやれた時には、そのことを伝えてくれていますか？	3.84	0.95	4.32	0.77	**
11 学生が緊張している時には、リラックスさせるようにしてくれていますか？	3.12	1.07	3.95	0.92	***
13 学生同士で自由な討論ができるようにしてくれていますか？	3.65	0.90	3.18	1.21	*
17 学生が気軽に質問できるような雰囲気を作ってくれていますか？	3.36	1.17	3.63	0.73	
22 学生に対する要求は、学生のレベルで無理のない要求ですか？	3.80	0.92	4.02	0.62	
26 学生一人一人と、良い人間関係をとるようにしてくれていますか？	3.42	0.97	3.59	0.89	
28 物事に対して柔軟に対応してくれていますか？	3.54	0.95	3.79	0.71	
34 学生の言うことを受け止められていますか？	3.72	1.00	4.05	0.67	*
39 指導の方法は統一していますか？	3.14	1.20	3.86	0.72	***
40 学生に対し忍耐強い態度で接してくれていますか？	3.64	0.97	3.82	0.83	
<b>要素外の項目</b>					
1 学生が実習をすすめる上での情報を提供してくれていますか？	3.73	0.83	4.10	0.91	*
3 グループカンファレンスや計画発表に適切な助言をしてくれていますか？	4.01	0.93	3.80	1.05	
29 実習の展開経過において、適切なアドバイスをしてくれていますか？	3.74	0.79	3.57	0.78	
32 患者様と良い人間関係をとっていますか？	4.08	0.74	4.29	0.62	
36 担当指導教員と良い人間関係を保っていますか？	3.78	0.97	3.45	0.99	

\* p &lt; 0.05 \*\* p &lt; 0.01 \*\*\* p &lt; 0.001

め、臨地実習指導者および実習指導係と日々の指導者の2群で比較を行った。臨地実習指導者および実習指導係と日々の指導者の要素別・項目別平均値の比較を表3に示す。

臨地実習指導者および実習指導係と日々の指導者の要素別平均値の比較では、『学習意欲への刺激』(p<0.01)、『理論的な指導』(p<0.05)、『学生への理解』(p<0.05)で日々の指導者の方が有意に低

かったが、『実践的な指導』では有意な差は認められなかった。

項目別平均値において、『実践的な指導』では「31.必要と考えるときには、看護援助行為のお手本を学生に示していますか？」の1項目、『学習意欲への刺激』では「8.カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導していますか?」、「30.実習グループの中で、学生が互いに刺激あって向上

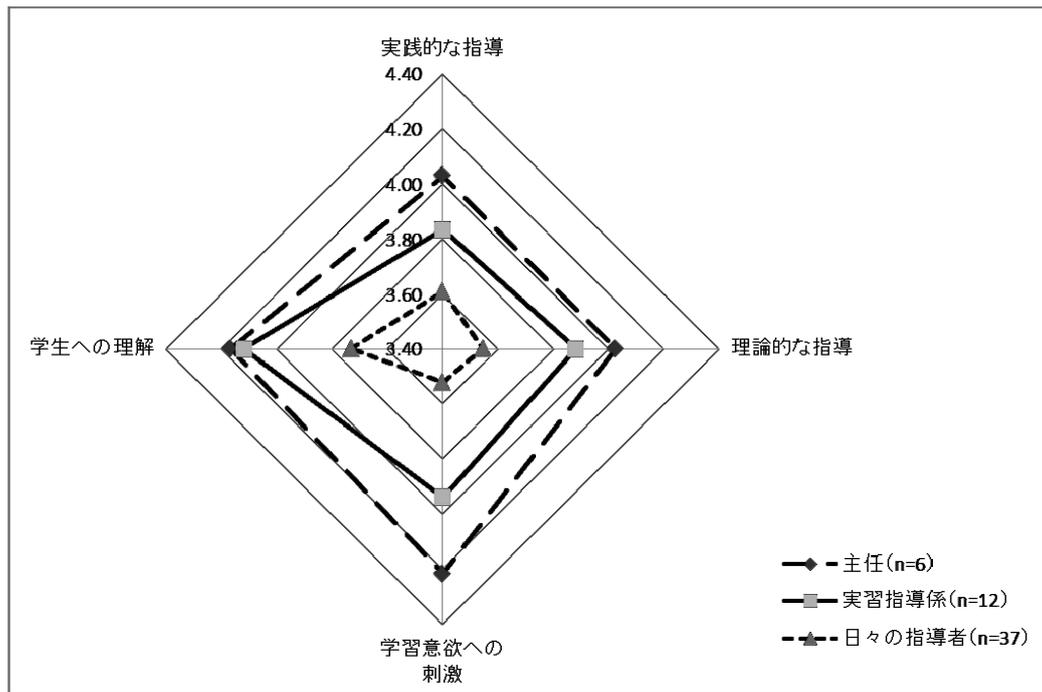


図1 実習指導者の役割別の要素別平均値の比較

できるように働きかけていますか?」、「37.学生が何か選択に迷っている時、選択できるように援助していますか?」の3項目、『学生への理解』では「13.学生同士で自由な討論ができるようにしていますか?」、「26.学生一人一人と、良い人間関係をとるようにしていますか?」、「28.物事に対して柔軟に対応していますか?」の3項目が、臨地実習指導者および実習指導係よりも日々の指導者の方が有意に低かった ( $p<0.01$ )。

### 3. 日々の指導者の実習指導に対する思い

日々の指導者の実習指導に対する自由記述内容についてカテゴリーに分類した結果を表4に示す。

意味内容にそってカテゴリー化した結果、5カテゴリーに分類された。5カテゴリーは、【学生間の差】、【学生の実習態度】、【学生の看護実践】、【実習指導のしづらさ】、【大学への要望】であった。中でも、【学生の実習態度】は全記録数の6割以上を占め、『学生の言葉遣いや態度の悪さ』、『学生の消極的な姿勢』、『学生のひたむきな姿勢』、『公共の場での私語や記録物の取り扱いへの注意喚起』といった内容が記述されていた。

## 考察

### 1. 看護学生と実習指導者の比較

看護学生と実習指導者の要素別平均値の比較では、『学生への理解』において、看護学生の方が有意に低かった。『学生への理解』は看護学生にとっては4要素の中で最も平均値が低かったが、実習指導者にとっては最も高かったことから、順位の違いを認めた。先行研究でも実習指導者の『学生の理解』の平均値は4要素の中で最も低値で、実習指導者が感じている以上に学生は実習で緊張感や不安を抱き、精神的な支えを求めている<sup>8)</sup>と指摘しているが、本調査においても同様の結果を示した。

『学生への理解』の質問項目の中で有意な差がみられた項目に「緊張感の緩和」、「看護師間の指導方法の統一」といった内容が含まれている。このことから、本研究の対象となった看護学生は、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱを経て成人看護学実習に臨んでいるが、しかしそれでもまだ実習への緊張感が高く、指導を受けても自分で指導内容の意図を解釈して理解できていないため、指導方法の統一が図れていないと感じたのではないかと考えられる。したがって、実習指導者は緊張感や不安を抱きながら実習に臨んでいる看護学生の気持ちに寄り添い、学生の理解の程度を確認しながら指導をしていく必要があると示

表3 実習指導者および実習指導係と日々の指導者の要素別・項目別平均値の比較

質問項目	主任・実習指導係 (n=18)		日々の指導者 (n=37)	
	平均値	SD	平均値	SD
実践的な指導	3.90	.46	3.61	.62
2. ケアの実施時には、(学生に)基本的な原則を確認していますか？	4.33	.840	4.08	.829
12. 専門的な知識を学生に伝えるようにしていますか？	4.06	.725	3.89	.774
16. 学生に対して看護者として良いモデルになっていますか？	3.67	.686	3.46	.767
21. 理論的内容や、既習の知識・技術などを実際に臨床の場で適用してみるように働きかけていますか？	3.72	.752	3.65	.857
25. 記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行えていますか？	3.22	1.060	2.78	1.109
31. 必要と考えるときには、看護援助行動のお手本を学生に示していますか？	4.39	.502	3.78	.821 **
理論的な指導	3.93	.51	3.55	.60 *
5. 学生に対し客観的な判断をしていますか？	4.39	.502	4.25	.595
6. 看護専門職としての責任を学生が理解するように働きかけていますか？	4.22	.808	3.95	.705
7. 学生の不足なところや欠点を、学生が適切に改善できるように働きかけていますか？	4.22	.548	3.73	.693 *
14. 学生が、学ぶことの必要性や学習目標を認識できるように支援していますか？	4.17	.707	3.65	.889 *
19. より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言っていますか？	3.50	1.098	2.97	1.190
20. 学生に事柄を評価しながら考えてみるように言っていますか？	3.61	.916	3.30	.939
24. 記録物の内容について適切なアドバイスをしていますか？	3.39	1.145	2.97	.986
学習意欲への刺激	4.03	.51	3.52	.64 **
8. カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導していますか？	4.50	.707	3.84	.800 **
15. 学生が“看護は興味深い”と思えるような姿勢で仕事していますか？	3.94	.639	3.54	.730
18. 学生が実施してよい範囲・事柄を、実習の過程に応じて明確に示していますか？	4.11	.832	3.65	.789
23. 学生がより高いレベルに到達できるような対応をしていますか？	3.76	.877	3.49	.837
27. 学生が新しい体験ができるような機会を作っていますか？	3.72	.669	3.32	.915
30. 実習グループの中で、学生が互いに刺激しあって向上できるように働きかけていますか？	3.50	1.098	2.62	.980 **
33. 学生が新しい状況や、今までと異なった状況に遭遇した時は方向づけをしていますか？	4.17	.618	3.78	.820
35. 学生自身が自己評価をできやすくするように働きかけていますか？	4.00	.594	3.54	.730 *
37. 学生が何か選択に迷っている時、選択できるように援助していますか？	4.22	.647	3.54	.836 **
38. 学生に良い刺激となるような話題を投げかけていますか？	3.72	.752	3.41	.927
41. 学生がうまくいかなかった時、そのことを学生自身が認めることができるように働きかけていますか？	4.11	.758	3.53	.866 *
42. 学生の受け持ち患者様と、その患者様へのケアに関心を示していますか？	4.44	.616	3.86	.887 *
43. 学生が学習目標を達成するために、適切な経験ができるように援助していますか？	4.22	.647	3.68	.884 *
学生への理解	4.13	.42	3.73	.58 *
4. 学生に対し(裏表なく)率直ですか？	4.50	.618	4.24	.641
9. 学生に対し思いやりのある姿勢でかかわっていますか？	4.39	.502	3.81	.845 *
10. 学生がうまくやれた時には、そのことを伝えていますか？	4.50	.514	4.22	.854
11. 学生が緊張している時には、リラックスさせるようにしていますか？	4.11	.832	3.86	.976
13. 学生同士で自由な討論ができるようにしていますか？	3.83	.924	2.78	1.172 **
17. 学生が気軽に質問できるような雰囲気を作っていますか？	3.83	.707	3.51	.731
22. 学生に対する要求は、学生のレベルで無理のない要求ですか？	4.06	.539	3.97	.645
26. 学生一人一人と、良い人間関係をとるようにしていますか？	4.00	.767	3.35	.857 **
28. 物事に対して柔軟に対応していますか？	4.11	.676	3.59	.644 **
34. 学生の言うことを受け止めていますか？	4.28	.461	3.95	.743
39. 指導の方法は統一していますか？	4.06	.725	3.76	.723
40. 学生に対し忍耐強い態度で接していますか？	3.94	.873	3.73	.803
要素外の項目	4.26	.45	3.62	.66 **
1. 学生に実習をすすめる上での情報を提供していますか？	4.56	.504	3.87	.977 **
3. 学生のグループカンファレンスや計画の発表に、適切に助言していますか？	4.17	.707	3.59	1.140
29. 実習の展開経過において、適切なアドバイスをしていますか？	4.06	.639	3.32	.747 **
32. 患者様と良い人間関係をとっていますか？	4.50	.514	4.18	.646
36. 担当指導教員と良い人間関係を保っていますか？	4.00	.686	3.16	1.007 **

\*p&lt;0.05 \*\*p&lt;0.01

唆を得た。

一方、「記録物への適切なアドバイス」や「学生同士の関わりの調整」の平均値は看護学生の方が有意に高かった。これは、先行研究<sup>9)</sup>と同様の傾向だった。記録物に関しては「25.記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行えていますか？」でも学生の方が有意に高い。このことから、学生は記録物の指導やタイミングについては実習指導者が感じているより肯定的に受け止めていたと思われる。成人看護学実習は看護過程の展開を通して

看護の実践、看護の役割などについての考えを深めていく。そのため、実習指導者の記録物の指導は、学生にとって思考過程の整理だけでなく、看護の実践にもつながる。したがって、実習指導者は記録物を介した指導も有用であることを認識し、意図的に活用していくことが望ましいと示唆を得た。

## 2. 実習指導者の役割別の比較

実習指導者の役割別の比較では、全ての要素において臨地実習指導者が高く、日々の指導者が低い傾

表4 日々の指導者の実習指導における自由記述

カテゴリ	サブカテゴリ	生データより抜粋
学生間の差	学生間の差	・学生の個人差が大きい。「学ばせてもらう」という気持ちや態度が欠けているように感じる 경우가多く、指導や助言に対しても聞き入れようという姿勢がもてない学生が増えている。その反面、少し助言をすると自ら気付き、次に活かせるよう個別的なプランを考えられる学生もいる。力の差が大きいので指導が難しい。
学生の実習態度	学生の言葉遣いや態度の悪さ	・患者さんにため口で話している学生さんも見かけます。その子は悪気はないでしょうが、あくまで学生は学生であり、患者様は自分の体をもって学ばせていただいているということを忘れてほしくありません。学ぶ姿勢・感謝の気持ちを忘れないで下さい。あくまでも一部の学生ですが・・・。 ・たまに態度面で気になることが多々みかけます。カウンターでおしゃべりしていたり、足を組んだり肘をついたり・・・私も見かけたらその都度注意するようにしていますが、実習態度として自覚が足りないと思います。 ・態度について、まずは指導者に自分の名前を名乗ってください。社会人としてのマナーです。「ごめんなさい。」「うん、うん」という学生さんもいます。 他4件
	学生の消極的な姿勢	・全体的に主体性のない学生が多い。もっと学ぼうとする姿勢を見せて良いと思います。実習は患者様の所へ行って学ぶことが多いはずなのに、CFルームにいる時間が長すぎると思います。 ・もっと患者様のところに行き、思いを聞いたり、感じとってほしいと思います。詰所裏で勉強をしたり、記録をしたりしている時間が多いと思います。 ・患者さんのところに積極的に訪室しておらず、あまり関係性が築けていないように感じる。(学生だからこそこできる患者さんとの関わりをしてほしいと思う。)詰所で勉強も大切だが、実際の患者さんと関われるのは実習だけなので、もう少し患者さんのもとへ訪室回数を増やしたり、時間を増やしてほしいと思う。 他6件
	学生のひたむきな姿勢	・挨拶もきちんとしてくれ、一生懸命な姿勢も伺えます。 ・毎日頑張っていて実習している姿に感動します。 他1件
	公共の場での私語や記録の取り扱いへの注意喚起	・時折エレベーター内で一緒になった際、学生さん同士で話している内容が受け持ち患者さんのことや、全くプライベートなこと(「実習しんどい」や「今日も疲れた」etc)が目立ちます。受け持ち患者のことはプライバシーのこともありますし、業務用エレベーターでも一応は公共の場です。もちろん一部の学生さんだけだとは思いますが、私達の仕事はプライバシーに振れることも多いので気をつけてもらいたいと思います。 他1件
学生の看護実践	疾患や知識の不十分さ	・学習面でも、基本的な疾患や治療についての学習があまりにも不足していると思います。覚えることはできなくても、メモをしたり資料をもつことはできると思います。いつもそこからの指導になるので、もう少し、事前学習をしていればもっと他の予備知識やマメ知識も教えたいのに・・・と思います。
	ケアの準備の不十分さ	・ケアの準備が常に不十分に感じます。安全、安楽、自立、経済性の4原則のもと、もっと細かく立案してくる必要があると思います。 他2件
	アセスメントを踏まえた報告の不十分さ	・学生の報告について、例えば「患者様がお腹が痛いと言っていました。以上です。」といった患者様が述べた事そのまま報告することがあります。実習が始まった学生ならまだしも、実習経験を重ねた学生ならこちらも期待していますので、もう少し自分でアセスメントして報告してください。
実習指導のしづらさ	継続的に指導ができない	・日々の指導者としては、学生が患者に対してどのようなケアの計画を立ててきているのか全く分からないので、助言しにくいです。 ・学生指導担当者がまとめて計画発表を聞いているので、結局日々の指導者となると技術の確認、フォローぐらいしかできていない。
	病棟の状況により十分な指導ができない	・病棟の人手不足により十分な指導ができないこともあるので保清などはもっと教員にも指導して欲しい。
大学への要望	実習前に接遇の指導をしてきて欲しい	・挨拶、患者様に対する言葉使いなど(接遇)は日ごろから学校で指導して欲しい。
	学生の到達目標を示してほしい	・自分の実習していた頃とはあまりにも内容が違い、とまどうことばかり。”〇年生は～までできる”など表記して頂くか、学生側からのアピールもしてもらえたらと思います。

向を認めた。臨地実習指導者および実習指導係と日々の指導者の要素別平均値の比較では、『学習意欲への刺激』、『理論的な指導』、『学生への理解』で日々の指導者が低かったが、『実践的な指導』では有意な差はなかった。これは、臨地実習指導におけ

る役割が関与していると考えられる。日々の指導者は、患者へのベッドサイドケアを通じた看護ケアの指導を中心に担い、病棟オリエンテーションやカンファレンス参加・助言・指導などのグループ全体への関わりについては臨地実習指導者が中心に役割を

担っている。そのため、日々の指導者は『実践的な指導』の評価が高かったものの、「カンファレンスでの建設的な指導」や「グループでの刺激を向上させる働き」という『学習意欲への刺激』への評価が低く示されたことは当然の結果である。しかし、カンファレンスは、学生、看護職者、教員が連携して対象者のより良いケアを考えることを通して、看護の本質と真髄に触れ、その真価を学び、醍醐味が体験できる良い機会となり、看護学生のモチベーションを高めることにつながる<sup>1)</sup>。また、臨地実習教育目標の理解を深め、学習内容や到達度を把握・評価できるまたとない効果的な教育場面となることから、看護職者と教員と学生の三方の双方向での教育の波及効果が出現する<sup>1)</sup>。このことから、カンファレンスに参加することは、実習目標や学生の学習状況を把握し、学生の理解を深め、実習指導への関心を高めることにつながり、指導者にとっても実習評価を高めていくことにつながるのではないかと考える。

『学生への理解』については、「一人一人との良い人間関係」、「物事に対しての柔軟な対応」で有意な差を認めた。看護学生との比較ではこれらの内容について有意な差を認められなかったが、役割別で認めたことは、日々の指導者は学生指導への関心があっても業務と学生指導の時間調整をはかることに困難な現状を抱えており、その結果自己評価として低くなったのではないかと推察できる。したがって、教員は日々の指導者の指導の状況を汲み取りながら、日々の指導者との連携を積極的に図っていく必要性が示唆された。

### 3. 日々の指導者の実習指導に対する思い

日々の指導者の自由記述からは、社会人としてのマナーや一般常識、接遇などに関する記述を多く認めた。日々の看護師は、看護学生が患者と関わる場面に多く立ち会うため、看護学生の気にかかる態度を多く感じ取ったのではないかと考えられる。看護実践は、人間関係を基盤にして行われ、卒業時までには多様な年代や立場の人との援助的人間関係の形成の能力育成が求められる<sup>10)</sup>。本学では臨地実習に臨むに当たり1.2年生の早期の段階から指導を行っているが、3年生の領域実習になってもなお臨地実習に臨む上での態度面に課題を抱える学生がいることが明らかになった。今後は、1.2年生の早期の段階での指導に加え、3年生以降も態度面の向上が

図れるよう、継続して指導していく必要性が示唆された。

## VI. 結論

- 1) 日本語版ECTBスケールを用いた成人看護学実習の実習評価では、看護学生と実習指導者の要素別平均値を比較すると、『学生への理解』で実習指導者よりも看護学生のほうが有意に低かった。
- 2) 臨地実習指導者および実習指導係と日々の指導者の2群の要素別平均値の比較では、『学習意欲への刺激』、『理論的な指導』、『学生への理解』で日々の指導者の方が有意に低かったが、『実践的な指導』では有意な差は認められなかった。
- 3) 日々の看護師の実習指導に対する思いからは、【学生間の差】、【学生の実習態度】、【学生の看護実践】、【実習指導のしづらさ】、【大学への要望】が抽出された。
- 4) 効果的な実習指導のために、実習指導者は看護学生の気持ちに寄り添うこと、学生の指導内容の理解度を確認すること、記録物を介した指導を活用することが望ましいと示唆を得た。また、日々の指導者と教員は連携を積極的に図るとともに、教員側は態度面への継続した指導を行う必要性の示唆を得た。

## VII. 研究の限界と今後の課題

本研究では、1施設での実習指導評価であるため一般化は難しい。また、日々の指導者の自己評価は臨地実習指導者や実習指導係と比較すると自己評価が低い結果となったが、実習指導環境との関連については明らかにされない。今後は、実習指導環境についても考慮した実習指導評価の検討が必要である。

## 謝辞

本研究の実施にあたり、ご協力くださいました看護学生、実習指導者の皆様に深く感謝申し上げます。

本研究は、平成25年度千里金蘭大学看護学部特別研究Aの助成を受けた研究の一部である。

## 引用文献

- 1) 文部科学省, 大学における看護実践能力の育成の充実にむけて 看護学教育の在り方に関する検討会 (2002)
- 2) 佐藤みつ子, 看護教育における授業設計, 100, 医学書院 (2011)
- 3) 新井祐恵ほか, 日本語版ECTBを用いた成人看護学実習指導の評価－実習指導者と看護学教員の評価から－, 千里金蘭大学紀要10, 95-103 (2013)
- 4) Lani Zimmerman&John Westfall, The Development and Validation of a Scale Measuring Effective Clinical Teaching Behaviors, Journal of Nursing Education, 27 (6), 274-277(1988)
- 5) 石川ふみよほか, 成人看護学実習の指導方法に関する一考察 学生の指導者評価と看護婦の自己評価の結果から, 東京都立医療技術短期大学紀要5, 165-172(1992)
- 6) 中西啓子ほか, Effective Clinical Teaching Behaviors (ECTB) 評価スケールを用いた看護実習指導の分析－第1報－, 川崎医療短期大学紀要22, 19-24(2002)
- 7) 影本妙子ほか, Effective Clinical Teaching Behaviors (ECTB) 評価スケールを用いた看護実習指導の分析－第2報－, 川崎医療短期大学紀要24, 19-24(2004)
- 8) 藤堂由里ほか, 学生による成人看護学慢性期・終末期の実習指導評価, 川崎医療短期大学紀要31, 33-38(2011)
- 9) 影本妙子ほか, 成人看護学慢性期・終末期の実習指導の分析－ECTB評価スケールを用いて－, 川崎医療短期大学紀要28, 27-31(2008)
- 10) 文部科学省, 看護実践能力育成の充実に向けた大学卒業時の到達目標 看護学教育の在り方に関する検討会報告 (2004)

